

シェフチェンコさんからのメッセージ

連帯して命を守ろう

原爆と原発事故で大被害を受けた4自治体の長にインタビューした唯一のジャーナリスト、セルゲイ・シェフチェンコさんから3.11と4.26に向けてメッセージが届きました。



連帯して命を守ろう

2つの悲劇の記念日が近づいています。

2021年3月11日は日本の福島第一原発、4月26日はウクライナのチェルノブイリ原発で世界最大の爆発事故が発生して、10年と35年です。

1986年に、ソ連の共和国だったウクライナの首都キエフから100 km離れた場所で原発が爆発したときは、不安から始まり、悲しい出来事が次々に起こりました。

10年前は、日本で東北地方太平洋沖地震によって破滅的な津波が発生し、原発が爆発して世界は再び原発事故の恐怖を経験しました。

私は、ウクライナの同胞や、日本の人々を取材しただけでなく、爆発事故が起きた市と町の指導者も取材しました。

ご支援・協力に感謝します

このメッセージの前に、『食品と暮らしの安全基金』のみな様には、ウクライナのチェルノブイリ被害者の権利を擁護する団体を支援していただき、また『ジャーナリスト・イニシアティブ基金』や『ウクライナ・ジャーナリスト連盟』とのパートナーシップにも深く感謝しています」とお礼が書かれていました。

また、平和な時代になる前の第2次世界大戦中に、広島と長崎へ原爆が投下された歴史を、みんなが知っています。灰で幽霊のようになった廃墟を生き延びた人々は、近代都市を造り上げました。私は、原爆が投下された場所を訪れた後、市を率いる2人の市長にも取材しました。

チェルノブイリやプリピャチ市では、放射能で汚染された空気を吸って命を奪われた人がたくさんいます。私の家族、親戚、友人にも亡くなった人がいます。

双葉、広島、長崎で、日の丸の旗とともに慰霊碑に飾られた折り鶴を見て、科学技術の両刃の剣がどれほど危険なものであるかが心にしみました。

両刃の剣になる科学技術を安全に使用する能力を、私たちはまだ持っていないのです。

私たちは、壊れやすい地球の自然に責任を持ち、将来の世代の生命と健康を守るよう、神から使命を与えられています。



争うより「悪い平和」を

原子力災害に関して私が見聞きしたことから導き出した結論は簡潔にして単純です。科学技術の進歩が避けられない一方で、間違いも避けられません。それが時に、取り返しのつかないことになります。そうならないように科学技術を用いる責任を、私たちは負っているのです。

それほど遠くない冷戦の日々と、敵対的な2つのグローバルシステム間の軍拡競争を、私は思い出します。

平和活動家の「明日の放射能より、今日の行動を」と言う言葉を聞いたのは、そのころでした。

核の時代には、争うよりも「悪い平和」の方が優れています。良いことを求めて争うより、人命を最優先にして、問題はあっても平和にやっていくほうがいいのです。



連帯して命を守る

コロナウイルスによるパンデミックの時期ですから、日本国民に向けて、私は、まず友人の発言をお伝えします。

1986年にチェルノブイリ市を訪れ、原発事故取材したキエフのジャーナリスト、ミハイル・ソロカ氏は「新しい災害を引き起こしている新型コロナウイルスは、放射線と同じくらい目に見えず、陰湿で、健康や生命にとって危険なものです」と話しています。

世界の片隅で起きた災害は、あっという間に地球規模の災害となり、多くの人に苦しみと苦難をもたらしました。この事実が、今日の世界がいかに脆弱であるかを物語っています。

チェルノブイリと福島の原発事故を乗り越えようとするのは、無関心だった人々を結びつけ、民族間の相互理解を深め、両国の関係をより良いものにしてきました。

現在のパンデミックでも、私たちは連帯して、地球と人間の生命を守ることが求められています。

(ウクライナ・ジャーナリスト連盟・書記長)

